

「人口未来戦略」の検討

1. 関係人口創出の仮説モデル P 3

2. 「人口未来戦略」の提言に向けた検討経緯 P17
 - 2-1 県外の人に富山県を選んでもらうための取組み
 - ・富山県のポテンシャル①：「癒しの環境」
 - ・富山県のポテンシャル②：「子育て・教育環境」
 - 2-2 県民一人ひとりを起点とした関係人口の創出

3. 「人口未来戦略」の構成案（イメージ） P36

1. 関係人口創出の仮説モデル

3

1. 関係人口創出の仮説モデル

(1) 第2回会議での委員ご意見のとりまとめ

第2回会議においては、主に、大きく分けて以下の3つの観点についてご意見をいただいた。

1. 人間の一生において、大きな支出をする主な理由が **iヘルスケア**、**ii教育**、**iii家**、**iv老後**の4つであることも踏まえると、県外の人に富山県を選んでもらうための、関係人口の入り口としては、
 - ① 「くすりの富山」の伝統や先進的な医療体制、豊かな自然・食文化や「ウェルビーイング先進地域」を目指しているという、言わば「癒しの環境」が、「疲れた人」などを惹きつける**本県のポテンシャルとなりうる**こと
 - ② 暮らしやすさや働きやすさ、教育水準の高さという、言わば「子育て・教育環境」が、**子育て世代の方々を惹きつける本県のポテンシャルとなりうる**こと
2. また、関係人口の拡大にあたっては、③**県民一人ひとりが県外の人を呼び込み、関係を広げていくという視点も重要**であること

4

(2) 関係人口創出の仮説モデルの考え方

これまでの意見を踏まえて、「ターゲット・訴求内容・創出を目指す関係人口類型」について、以下の4パターンを「行動変容のための戦略仮説 (Theory of Change) モデル」として作成した。

1 富山県のポテンシャルを活かした関係人口の創出

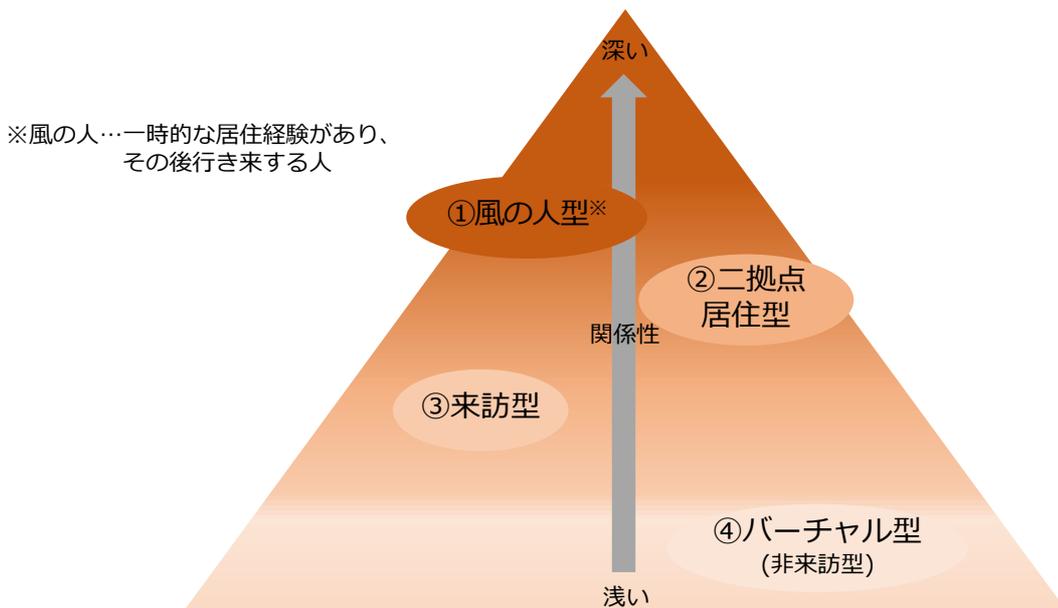
- Aパターン：「癒しを求める三大都市圏のビジネスパーソンとその家族」をターゲットに、「癒しの環境」を訴求し、「来訪型」「二拠点居住型」の関係人口を創出する。
- Bパターン：「富山県への転勤者やその家族」をターゲットに、「子育て・教育環境」を訴求し、「風の人型」関係人口を創出する。
- Cパターン：「受験競争など都会の子育て・教育環境に違和感を持つ都市部の保護者」をターゲットに「子育て・教育環境」を訴求し、「来訪型」「二拠点居住型」の関係人口を創出する。

2 【Dパターン】県民一人ひとりを起点とした関係人口の創出

また、県民一人ひとりの県外の方々とのつながりを通じた関係人口の創出をするため、「コミュニティに属している人」をターゲットに、「人・コトの魅力」を訴求し、「来訪型」の関係人口を創出する。

(参考) 関係人口の類型

関係人口は、①風の人型、②二拠点居住型、③来訪型、④バーチャル型（非来訪型）の4つの類型に大別される。



関係人口創出の仮説モデル

Aパターン1 「癒しの環境」を活かした関係人口創出の仮説モデル

ターゲット：「癒しを求める三大都市圏のビジネスパーソンとその家族」
特に、三大都市圏に住む中年男女（40～59才）

訴求内容：「癒しの環境」

創出する関係人口の類型：「来訪型」「二拠点居住型」

7

Aパターン1

ターゲットとその規模	①三大都市圏に住む中年男女（40～59才）：約1,900万人
社会環境	・コロナ禍を経て健康に対する意識が高まるなかで、「ヘルスツーリズム」の市場規模は年々拡大
人生のタイミング	○特に、40代～50代 ・職場や家庭での責任が重くなりストレスが大、さらに、自身の健康への不安が高まっている。 ・比較的自分の時間がある。
訴求内容	○ヘルスツーリズム（健康増進） ・富山の多彩な食や、豊かな自然環境を満喫でき健康増進に資するアウトドアスポーツ（トレッキング、サイクリングなど）、温泉などを活用したウェルネス体験を訴求
交流人口規模	上記により、年間30,000人程度を交流人口として本県に呼び込む。
関係人口規模	呼び込んだ交流人口には、「まちのコンシェルジュ（宿のおかみ、カフェのマスターなど）」や「地域との交流の場」との接点を設けることで、地域や人とのつながりを作る。 ⇒ 主に来訪型：年間10,000人程度、二拠点居住型：年間500人程度の関係人口を創出
課題	・民間の関係事業者も含めた受入体制の拡充、商品開発が必要 ・特に医療・健診機関との連携が必要となる取組みについては、県民への医療供給の低下とならないよう、県内の医療体制も含めて受入体制の調整が必要 （参考）「医科学的な根拠に基づく健康の回復、維持・増進につながる旅行」を希望する中年男女の割合：約0.2% （出典：日本観光振興協会「観光の実態と志向」R4）

※上記数値は関係人口の大まかな規模感を把握するための目安であり、厳密な試算ではない

8

Aパターン2 「癒しの環境」を活かした関係人口創出の仮説モデル

ターゲット：「癒しを求める三大都市圏のビジネスパーソンとその家族」
特に、三大都市圏に住む若年女性（20～39才）

訴求内容：「癒しの環境」

創出する

関係人口の類型：「来訪型」「二拠点居住型」

Aパターン2

ターゲットとその規模	②三大都市圏に住む若年女性（20～39才）：約760万人
社会環境	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を経て健康に対する意識が高まるなかで、「ヘルスツーリズム」の市場規模は年々拡大 ・特に、若年女性の間で、旅先でのスパ、ヨガ、フィットネス、ヘルシー食、レクリエーションなどを通じた、ウェルネス体験への志向が高まっている。
人生のタイミング	<ul style="list-style-type: none"> ○特に20代後半～30代 ・仕事が軌道に乗り、プライベートも充実、経済的な余裕もある。 ・健康や美容に関心が高く、フィットネスアプリなどを使って日常的に運動を取り入れている。
訴求内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ヘルスツーリズム（健康食、アロマなど） ・富山の食（薬膳）、リトリート施設や豊かな自然環境を活用したウェルネス体験を訴求
交流人口規模	上記により、年間10,000人程度を交流人口として本県に呼び込む。
関係人口規模	呼び込んだ交流人口には、「まちのコンシェルジュ（宿のおかみ、カフェのマスターなど）」や「地域との交流の場」との接点を設けることで、地域や人とのつながりを作る。 ⇒ 主に来訪型：年間3,000人程度や、二拠点居住型：年間200人程度の関係人口を創出
課題	・民間の関係事業者も含めた受入体制の拡充、商品開発が必要

※上記数値は関係人口の大まかな規模感を把握するための目安であり、厳密な試算ではない

Bパターン 「子育て・教育環境」を活かした関係人口創出の仮説モデル

ターゲット：「富山県への転勤者やその家族」

訴求内容：「子育て・教育環境」

創出する
関係人口の類型：「風の人型」

11

Bパターン

ターゲットとその規模	③富山県への転勤者及びその家族：約12,000人/年
社会環境	本県は、日本海側屈指の工業集積を誇っており、人口1万人あたりの事業所数及び従業者数が全国上位であり、毎年、転勤に伴う転入と転出が発生し、関係人口が一定規模創出されている。
人生のタイミング	○特に非認知能力が育まれる期間の子（幼児期～小学生）の養育時期 ・自然とふれあい、遊び、学んでほしいと考えている。 ・受験競争に縛られず、のびのびと子育てしたいと考えている。
訴求内容	○富山の豊かな自然環境や富山ならではの教育環境
交流人口規模	－（転勤者として、一定期間定住）
関係人口規模	・富山県への転勤者及びその家族年間12,000人程度に、富山の豊かな自然環境や富山ならではの教育環境を体感してもらい、県外転出した後に富山が第二の故郷となるような印象を残す。 ・さらに、県内居住中に、転勤者コミュニティなどへの加入を促進するなどにより、地域や人とのつながりを強める。 ⇒ より関係性の深い「風の人型」：年間12,000人程度の関係人口を創出
課題	・転勤者やその家族と地域を強固につなぐ必要があり、企業や団体と連携した取り組みが必要

※上記数値は関係人口の大まかな規模感を把握するための目安であり、厳密な試算ではない

12

Cパターン 「子育て・教育環境」を活かした関係人口創出の仮説モデル

ターゲット：「受験競争など都会の子育て・教育環境に違和感を持つ都市部の保護者」
特に、三大都市圏に住む子育て世代及びその子ども

訴求内容：「子育て・教育環境」

創出する関係人口の類型：「来訪型」「二拠点居住型」

13

Cパターン

ターゲットとその規模	④三大都市圏に住む子育て世代及びその子ども：約1,500万人
社会環境	都会の息苦しい教育環境（受験競争など）に疑問を感じる子育て世代の親について、豊かな自然や食・文化がある環境の中での教育体験（保育園留学やサマースクールなど）への志向が高まっている。
人生のタイミング	○特に非認知能力が育まれる期間の子（幼児期～小学生）の養育時期 ・自然とふれあい、遊び、学んでほしいと考えている。 ・受験競争に縛られず、のびのびと子育てしたいと考えている。
訴求内容	○自然を活かした教育プログラム ・都市部の子育て世代のうち、 地方での教育プログラムに関心の高い親とその子供約720万人を対象に、富山の豊かな自然環境や富山ならではの教育環境を活かした、保育園留学やサマースクールを実施
交流人口規模	上記により、 年間70,000人程度 を交流人口として本県に呼び込む
関係人口規模	滞在中に、親子での地域や人との接点を設け、 富山を第2のふるさと感じてもらう ⇒ 来訪型：年間20,000人程度 や、 二拠点居住型：年間1,200人程度 の関係人口を創出
課題	・本県の豊かな教育環境を体感できる教育体験プログラムや受入施設の拡充など、受入体制の整備が必要

※上記数値は関係人口の大まかな規模感を把握するための目安であり、厳密な試算ではない

14

Dパターン

県民一人ひとりを起点とした関係人口創出の仮説モデル

ターゲット：「コミュニティに属している人」

訴求内容：「人・コトの魅力」

創出する

関係人口の類型：「来訪型」

Dパターン

ターゲット	⑤コミュニティに属する人（特に、好奇心が強く積極的に交流や新しい知見を求める人）
社会環境	SNSの普及により、個人の魅力的な取組みなどの発信やつながりの創出が容易となり、SNSを活用した交流が広がっている。
訴求内容	コミュニティを通じた県民と県外の方とのつながりの強化
関係人口化	県人会や同窓会や、デジタルコミュニティを通じた県内外の人とのつながりをつくり、 来訪型 の関係人口を創出。 ※ 関係人口の規模は、取組みの内容によって大きく異なるため、今後精査

ターゲット	⑤コミュニティに属する人（特に、好奇心が強く積極的に交流や新しい知見を求める人）
社会環境	地域資源を再評価し活用することで地域の魅力を高めているカリスマ的な事業者等が、県外からの人を呼び込み、関係人口を創出している。
訴求内容	人を引き寄せるカリスマ的な事業者を核とした関係人口の創出
関係人口化	県民や関係人口の核となる人材と、県外の方とをマッチングする成長戦略カンファレンスなどのイベント等により、 来訪型 の関係人口を創出。 ※ 関係人口の規模は、取組みの内容によって大きく異なるため、今後精査

2. 「人口未来戦略」の提言に向けた検討経緯

2-1. 県外の人に富山県を選んでもらうための取組み

富山県のポテンシャル①：「癒しの環境」

委員発言要旨（会議の振り返り）

- ・元気になる富山、ウェルビーイング県なので、子育て疲れでも何でもいいから、疲れた人みんな来いと、ここに来たらみんな元気になって帰るといっただけでもすごいポジショニング。
- ・富山県はウェルビーイングを1丁目1番地に置いていて、生き返る、よみがえる、そしてそこに受容性と寛容性があるというところで、（関係人口を）引っ張ってくる事ができる。
- ・富山といえば健康、ヘルスケア、お薬、医療を中心軸とした観光やツーリズムというものは、「富山で休もう。」とか「富山でよみがえる」といった文脈と非常に結合しやすい。
- ・大腸癌などの検査と、美味しいものや休める場所をパッケージにして、医療機関、レストランやホテルと具体的な連携をやっていくとよい。

19

委員発言要旨（会議の振り返り）

- ・食べるということのは医療や健康にもつながる。ハーブや食、和漢薬をもっとPRして、富山に来て健康になっていただく。例えば和漢医がたくさんいるので、体の状態を診てもらって、それから美味しいものを食べるという形で、健康に即したようなものをセットにして来ていただくと富山に来る価値が生まれる。
- ・きつい状況になった時に富山に来たら元気になってすごくいい。富山は天気が悪くて日照時間が少ないが、逆に幸せになる技術というか知恵みたいなものが育まれているというポジショニングを取って進めていくことで、幸せ人口1000万を達成していくんだというストーリーもある。
- ・すでに産業として集積もしているし、薬のことが結構イメージ湧きやすい。それを発展させていって、ヘルスケア、ウェルネスはありだと思う。

20

戦略の提言に向けた整理（案）

※これまでの議論を踏まえて、事務局で文章化したもの

富山県のポテンシャル①：「癒しの環境」

以下の強みを活かして、心身の健康（予防・未病・治療）や美容の観点から、「癒しの環境」をきっかけとして関係人口の拡大を図る。

<主なターゲット> 癒しを求める国内外のビジネスパーソンとその家族 など

1. 本県の強み

①健康・美容

- ・古くから「**富山の薬売り**」として知られ、全国トップレベルの医薬品生産額や多彩なメーカーの集積を誇っており、**和漢薬**をはじめとする伝統医薬の研究も進んでいる。
- ・また、手術支援装置を用いた手術など**高度で先進的な医療体制が整備**されており、**県民の健康増進の総合的な推進**により、本県の健康寿命は男性72.71歳（19位）、女性76.18歳（10位）と全国平均を上回っている。
- ・さらに、降水量が多くて湿度も高いことなどから**美肌を保ちやすい環境**であり、「美肌県グランプリ」で全国上位に位置している。

21

②自然・食・文化

- ・本州随一の植生自然度を誇る**豊かな自然**に恵まれており、立山連峰をはじめとした**絶景スポット**が数多く存在する。
- ・また、高低差4,000mのダイナミックで稀有な地形と、四季の変化に富んだ風土に育まれた**美味しい水や多彩な食**に恵まれており、自然と共生しながらさまざまな知恵を育んできたことで、**独自の文化が形成**されている。
- ・さらに、美しい農村景観など、**農山漁村に根付いた多くの地域資源**を有し、近年は、自然や農村景観、食文化などを再評価・再編集して活用した**オーベルジュやリトリート施設や宿**などが相次いでオープンし、注目を集めている。

③ウェルビーイング先進地域

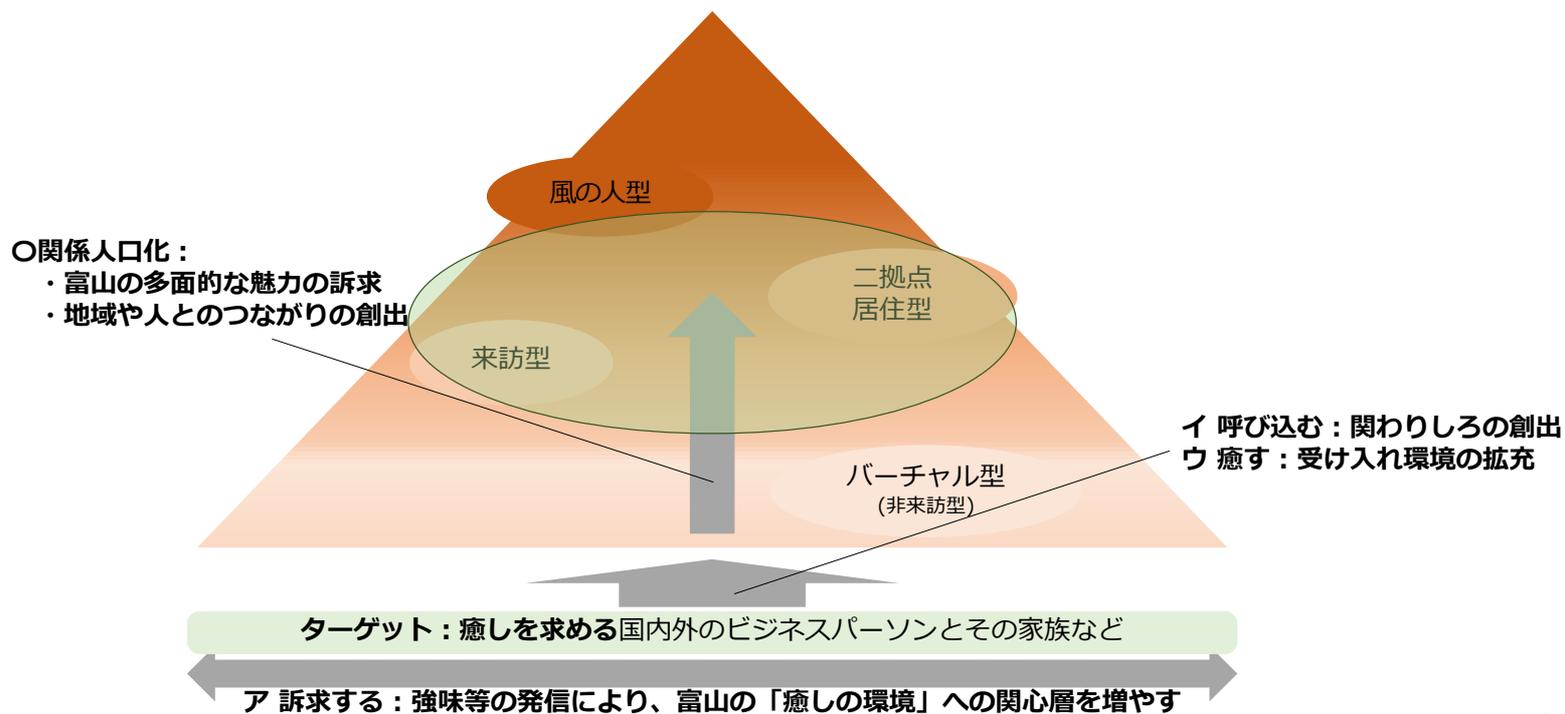
- ・豊かな自然、多様な歴史・文化や産業集積など、充実した「幸せの基盤」のもと、ウェルビーイングを中核に据えた成長戦略の実行により、世界中が追い求めている「**ウェルビーイング先進地域**」を目指している。

22

2. 取組みの方向性
 ○ 交流人口の拡大

ターゲット 取組み	癒しを求める国内外のビジネスパーソンとその家族
ア 訴求する (強み等の発信)	<ul style="list-style-type: none"> ・「富山のくすり」（医薬品産業や伝統医薬）の発信強化 ・「富山で休もう。」「よみがえるまち富山」など、国内外への「癒し」のイメージの訴求 ・寿司を入口とした「ウェルビーイング＝富山」のブランディング戦略の推進 など
イ 呼び込む (関わりしろの創出)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・ヘルス・ウェルネス・美容と連携した観光の推進 ・医療・ヘルス・ウェルネス・美容と連携した観光関連産業の集積の推進（地元産業の振興・企業誘致） ・関連イベント等の誘致 など
ウ 癒す (受け入れ環境の拡充)	<ul style="list-style-type: none"> ・本県を訪れた方々が居心地よく滞在でき、「癒し」やヘルスケアなどを体感できる良質な宿、滞在施設の充実 など

○ 「癒しの環境」を通じて創出する関係人口の類型：来訪型、二拠点居住型



富山県のポテンシャル②：「子育て・教育環境」

委員発言要旨（会議の振り返り）

- ・自然が豊かな日本、その中でも富山はすごい。アクセスもどんどん良くなるといった時に、**東京の方からの教育・子育ての遠征の場所**でもあればよい。**世界の、アジアの富裕層がボーディングスクールで富山に送り込む**みたいなのもある。
- ・こういう所で**子育てしたい**とか、**サマースクール**とかでいいから**こういう所に来たい**なという方々に、富山は刺さる。
- ・富山県は**ひとり親家庭の方を受け入れる県**と言って**ひとり親家庭の方にとって天国な県**みたいにしてしまおうとか、**他がまだやっていない**とがった政策をやっていくというのは**すごく大事**。

25

委員発言要旨（会議の振り返り）

- ・中学受験に疲れた人は来いと言ってやると結構な才能がやってくる可能性はある。普通教育だけでなく、**職業教育も相当充実**している。「**子育て・人づくりなら富山**」というのは**1個の巨大バリュープロポジション**になり得る。
- ・**暮らしやすさ**の都道府県ランキングでは常に、富山は**トップ3**に入っている。1世帯あたりの**収入、共働き率も上位**。それから**子育て**。**教育レベル**でいえば、小中学校の学カテストではいつも**トップ5**に入っている。これをもっとPRしてもよいのではないか。
- ・1人親家庭の方は、子供が小さかったら、**リモートじゃないと仕事ができない**。**富山県の企業が先んじて、子育て中の方々リモート歓迎**みたいなのをやって、**優秀な人材を確保**していけばよい。
- ・**リモートワークできる職場を増やす**ということについては、県からも企業に働きかけて、どれくらいの企業がリモートワークできるのかというの**も調べて、そういうデータも元**にPRしていただくと、**全国から優秀な方**に来ていただける。

26

戦略の提言に向けた整理（案）

※これまでの議論を踏まえて、事務局で文章化したもの

富山県のポテンシャル②：「子育て・教育環境」

以下の強みを活かして、富山の「子育て・教育」をきっかけとして関係人口の拡大を図る。

<主なターゲット>

- ①富山への転勤者やその家族、
- ②受験競争など都会の子育て・教育環境に違和感を持つ都市部の保護者、
- ③子育てと仕事の両立を望む子育て世代

1. 本県の強み

①子育て・教育環境

- ・ 保育所等の待機児童ゼロで、放課後児童クラブの施設数も年々増加するなど、**安心して子供を預けられる体制**が整っている。
- ・ **子育て世帯への負担軽減策が充実**している（第3子保育料無償化、子育てポイント制度、男性育休など）
- ・ 10万人あたり重要犯罪発生件数の低さが全国上位など、**治安が良く、地域で安心して暮らせる**環境が整っている
- ・ 小学校の全学年で少人数学級を実施するなど、**きめ細やかな指導**を行い、全国**学力・学習状況調査**では、**常に上位**に位置している。

- ・ 児童生徒の力を最大限に引き出すことなどを目標として、**教育のDX**を総合的・計画的に推進している。また、高校においては、新しい時代を創造する力を育成するため、**課題解決型教育やSTEAM教育を推進**するプロジェクト学習を実施している。
- ・ 人口あたりの図書館や博物館の数が全国上位であり、**文化施設の数が充実**しており、また、豊かな**自然環境の中でのびのびと子どもを育てる**ことができる。

②産業集積等

- ・ 1人あたりの製造品出荷額等が全国平均を大きく上回るなど、**日本海側屈指の工業集積**を誇っており、**県民所得**が高く、共働き率や女性の就業率、正社員率が高く**働きやすい環境**が整っているなど、充実した子育て環境のベースがある。
- ・ また、人口1万人あたりの事業所数及び従業者数が全国上位であり、将来の関係人口となる、**転勤者が一定規模存在**する。
- ・ 北陸新幹線などの鉄道網や高速道路網により、三大都市圏と直結している。

2. 取組みの方向性

○ 一定期間居住する方の呼び込み・印象付け

ターゲット	①富山県への転勤者やその家族	②受験競争など都会の子育て・教育環境に違和感を持つ都市部の保護者 ③子育てと仕事の両立を望む子育て世代
取組み		
ア 訴求する (強み等の発信)	<ul style="list-style-type: none"> ・移住・企業誘致資料を通じた発信 ・転勤者やその家族を通じた情報発信など 	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い教育環境のPR ・豊かな自然環境のPR
イ 関わる： 関わりしらの創出 (一定期間の居住の創出)	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーディングスクール※¹やサマースクール※²の誘致 ・高校生の地域留学の推進 ・中高生の修学旅行や大学生のゼミや部活の合宿誘致 ・二拠点居住の推進 など
ウ 豊かに育てる (居住期間における満足度の向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・富山ならではの教育環境の充実 ・多様な生き方を実現できる子育て環境の充実 ・子育て世帯の経済的負担軽減 ・保育・学童の職員の働く環境の整備も含めた、子供を預ける環境の向上 ・リモートワークができる環境づくり（特に、ひとり親家庭の負担軽減に寄与） 	

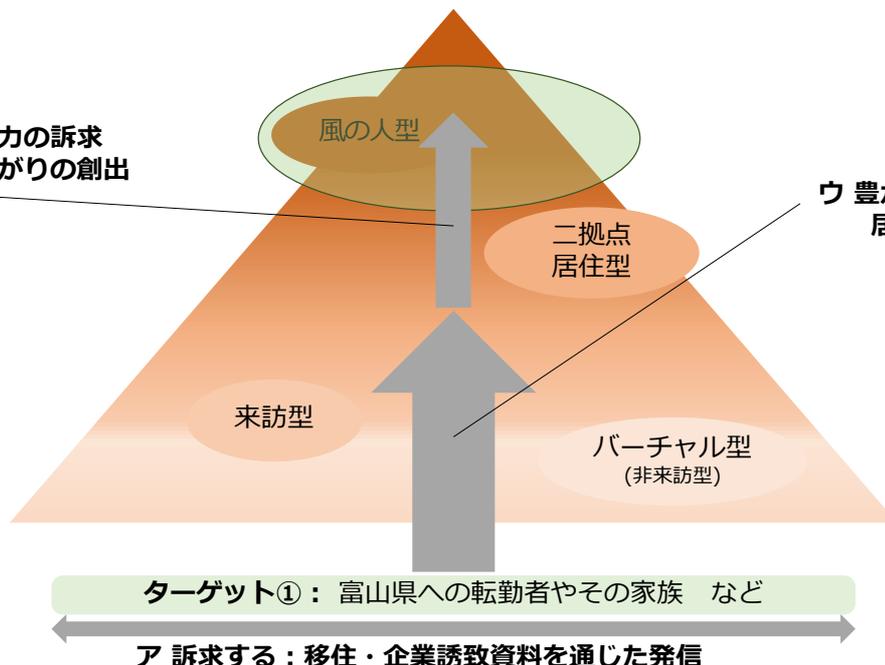
※1 全寮制の学校で、学業のみならず、心身共に修養し、規則・礼儀・自立心・コミュニケーション能力を養成

※2 夏休みに行われる子供向けのプログラムで、普段学校で学習する内容とは異なる学習体験を提供

○ 「子育て・教育環境」を通じて創出する関係人口の類型 i :風の人型

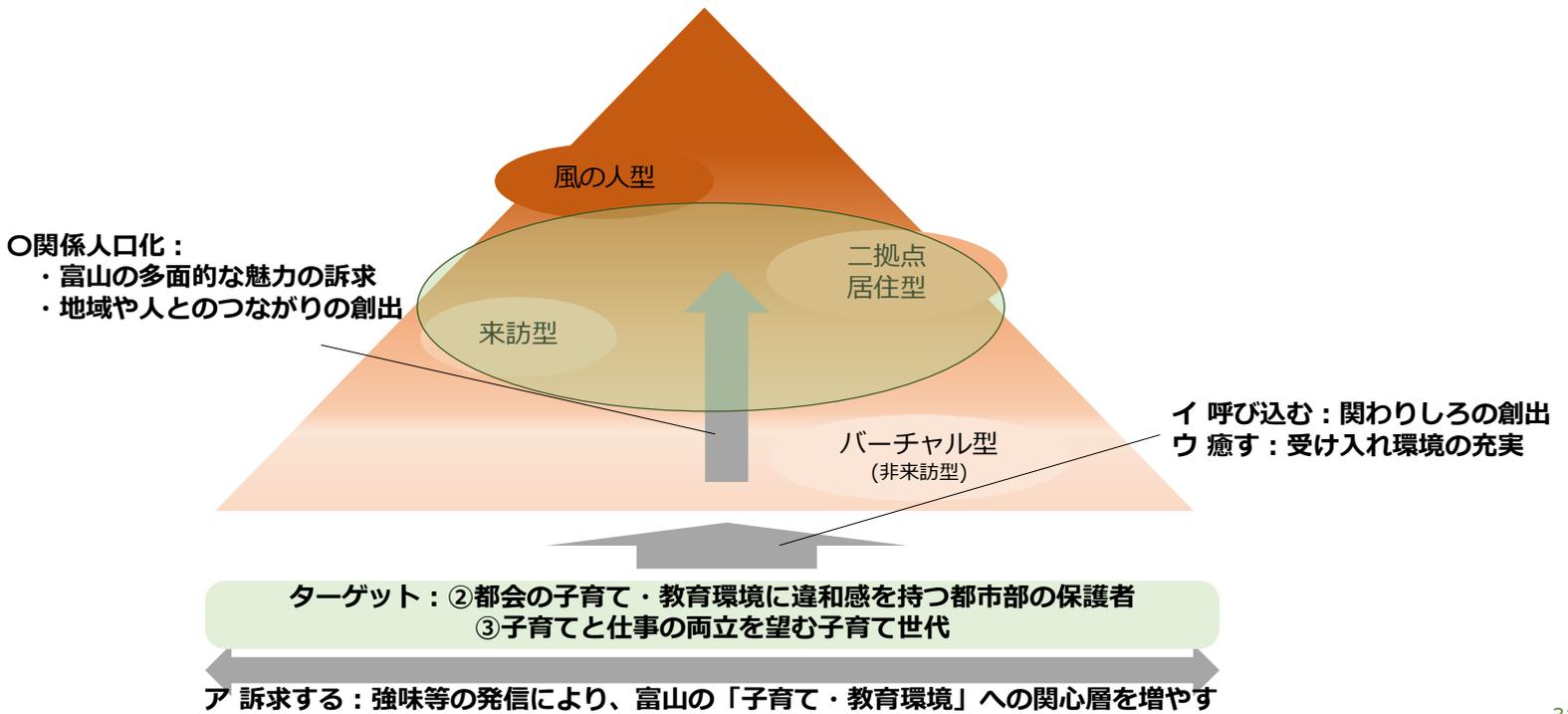
○関係人口化：

- ・富山の多面的な魅力の訴求
- ・地域や人とのつながりの創出



ウ 豊かに育てる：
居住期間における満足度の向上

○ 「子育て・教育環境」を通じて創出する関係人口の類型 ii : 来訪型、二拠点居住型



2-2. 県民一人ひとりを起点とした関係人口の創出

委員発言要旨

- ・ 県外から来てもらうと同時に、県外に出て行って、県外の人を呼び込むということも結構重要。富山の中に風の人とか薬売という伝統というか歴史があるというところはものすごい強み。
- ・ こっちからも積極的に動く人っていうのはキーパーソンであり、関係人口作りの原点になる。
- ・ 富山県と東京などを往復してる人、レバレッジをかけられる人に注目をすべきだし、そういう人を輩出・創出してくことは大事。
- ・ 富山に対する何らかの思い入れを持った人が他地域にいて、富山の人と交流を深める。そうすると結果的に富山に対する各人の心の中のマインドシェアが高まる。47都道府県の中で富山県のマインドシェアをどう作っていくのかが大事。例えば、他県から富山の友人を尋ねて来て一緒にご飯を食べると「富山県割り」があるとか、本県の子供たちと他地域の子供たちとの交流する機会を作るなど。
- ・ 大変な数の富山県人会の方々が、みな関係人口。これほど関係が決定的にある人々はいない。例えば、亡くなったらせめてお墓はふるさと富山につくったらどうか。そうしたら、お盆あるいは彼岸、春秋に一族みんなが帰ってくる。

33

戦略の提言に向けた整理（案）

※これまでの議論を踏まえて、事務局で文章化したもの

● 取組みの方向性

① 関係人口創出の核となる人材との連携

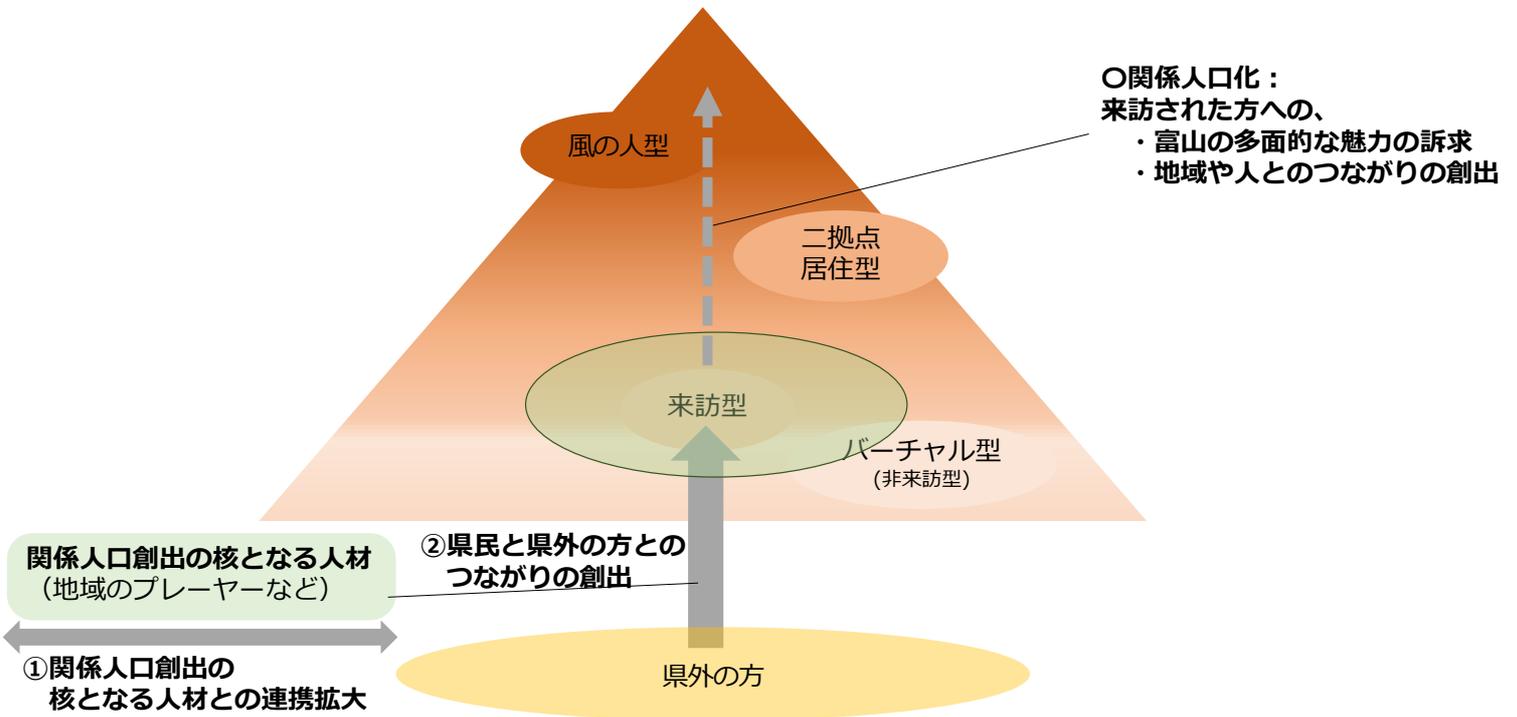
- ・ 県外から人を呼び込むことのできる求心力のある人材との連携
- ・ 県人会や同窓会、デジタルコミュニティを活用した、つながりの強化

② 県民と県外の方とのつながりの創出

- ・ 県民と県外の方とのつながりの場づくり（成長戦略カンファレンスの進化など）
- ・ 県外から人を呼び込むことのできる求心力のある人材の、関係人口の創出につなげる取組みへの支援

34

○ 県民一人ひとりを起点として創出する関係人口の類型：来訪型



3. 「人口未来戦略」の構成案（イメージ）

●文章量：A4、数ページ程度

●章立て

一 前文

「人口未来戦略」策定の経緯や考え方などを記述

二 関係人口の拡大・深化に向けて実施すべき施策概要（案）

・富山県のポテンシャル①「癒しの環境」

仮説モデル①、②…

・富山県のポテンシャル②「子育て・教育環境」

仮説モデル①、②…

・県民一人ひとりを起点とした関係人口の創出

仮説モデル①、②…

三 あとがき

成長戦略のビジョン「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～」に向けた今後の展開などを記述（国の動きと連動した施策の充実（二拠点居住など））